

2005年度 第12回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2006年3月14日(火) 午後7時15分～9時15分
開催場所：西東京ボランティア・市民活動センター活動室
出席委員：阿部靖子、飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子
柳澤正樹、山下恭子 <以上8名、敬称略、あいうえお順>
事務局：齊藤地域福祉課長、今林コーディネーター、平田コーディネーター、丸木係長

配布資料

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告
- 資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(3月)
- 資料 4：2005年度第11回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 5：西東京ボランティア・市民活動センター事業評価シート(修正案)
- 資料 6：2006年度西東京ボランティア・市民活動センター事業計画(案)
- 資料 7：2006年度西東京ボランティア・市民活動センター独自収入(案)
- 資料 8：2006年度ボランティア・市民活動経理区分科目明細表(案)
- 資料 9：災害専門委員会委員候補者名簿

委員長：時間になったので、運営委員会を開催する。今日から新委員が加わったので、社会福祉協議会会長の代理で委嘱状を交付したい。
担当理事より、新委員に委嘱状を手渡す。

委員長：新委員が加わったので、委員の自己紹介をお願いしたい。
自己紹介の記録は省略する。

1. 報 告 事 項

(1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告について

事務局より、資料1、2に基づき2月の業務報告を行う。

委員長：3月11日に行われたボランティアのつどいの報告をしてほしい。

事務局：当日の参加者は、約80名だった。昨年よりも大幅に参加者が減少した。午前中に行った講演会では参加者から「参考になった」という感想を後でいただいた。

委員：学生が実行委員会に参加をしている関係で当日参加した。今回は組織的な参加が多かったように思う。昨年とは違った感じで行われていた。最後の話し合いでは意見交換もできて良かったと思う。昨年は、小学生の参加が多かったように思うが、今年は少なかった。来年度は、昨年度と今年度の内容をミックスした内容で企画してはどうかと思う。

委員：自分自身がボランティア活動についての良い勉強になった。参加していた若い女性が広い意味でボランティア活動ができそうだということを言っていたのでよかった。

委員：企画の一部分で参加をしていたが、自分のところを行うことで精一杯だったが、終わってから参加者から活動の見学をしたいという申し出があった。

事務局：昨年の反省の中に、学習の場がほしいという意見があり、講演会とおしゃべりタイムでの話し合いを取り入れた。参加者層の予想としては昨年と同じかと思っていたが、小学生の参加が少なく残念であった。

委員長：反省会は行う予定なのか。

事務局：実行委員会としての反省会をこれから行う予定である。
他に質問、意見無く、2月の業務報告を終了する。

委員長：では、続いて3月の事業予定の説明をしてほしい。

事務局より資料3に基づき3月の事業予定を説明する。

委員：「民協」とはどのような団体か。

事務局：「民協」は、民生委員協議会の略称である。掲示板の管理をお願いしているので、イベント実施の時などに、会合に出席してポスター掲示のお願いをしている。

他に質問、意見無く報告事項を終了する。

2. 審 議 事 項

(1). 2005年度第11回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料4により、第11回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：6ページの(4).2006年度西東京ボランティア・市民活動センターの事業および予算の項目の15行目の「本質がわかような～」は「本質がわかるような～」に訂正してほしい。

他に訂正等の意見なく、第11回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とする。

(2). 事業評価について

事務局より、資料5に基づき事業評価シートの修正案が提案される。

委員長：前回（案）と異なる点は、第11回議事録と見比べながら確認をしてほしい。そのうえでご意見をいただきたい。

委員長：前回の案と比べて、評価点数のつけ方の幅が広がっているようだ。

委員：目標設定の項目は数値化できないのではないだろうか。そうすると、どんなにがんばっても評価点数は2点にしかないのではないか。

委員長：評価指標で、文章が具体的になりすぎていると思う。「できた」、「できない」、「その中間」という表現でもよいのではないか。

委員：自由記述の欄があるが、その自由記述の内容が点数に反映されるのか。企画段階から、評価項目に合わせて企画書を作成することが必要になるのではないか。

委員長：最終版を次回作成し、上半期使用し、改善していくようにしてはどうか。

委員：何度か実際にやってみないとわからないと思うので、委員長の意見に賛成だ。一点修正したほうが良いと思うのは、4-(8)の評価基準の数字の根拠は何か。何をもとにその数字で達成できたと判断するのか。せめて0%、50%、100%としてはどうか。

委員長：先ほど出された「できた」、「ふつう」、「できなかった」という形になるのではないか。

委員：項目5では事業の予算規模と評価基準の内容の性質が異なるのではないか。この項目は予算どおりにできたかどうかという項目とその事業の予算規模がどうだったかという項目の2つに分けたほうがよい。

委員長：次回事務局から最終版を提示してほしい。それをもって4月から使用するようにしたい。半期その評価シートを使用し、10月に見直しを行いたいが、その間に不都合があれば修正を加えることもあってよい。しかし、見直しということで運営委員会の正式な議題とするのは2006年10月としたいがそれでよいか。

異議無く、全員一致で、4月運営委員会に事務局から提示された評価シートを最終のものとし、それをもって、2006年度上半期の事業を評価することにする。また、10月に見直しを行うことについても承認された。

(3). 2006年度西東京ボランティア・市民活動センターの事業および予算について

事務局より、資料6、7、8に基づき、2006年度事業および予算について提案される。

委員：傾聴ボランティア講座の欄、「カウンセリング」という表現を「傾聴」という表現にしたほうがよい。カウンセリングと傾聴は正確には異なるので、誤解をする危険性がある。

委員：コーディネートの欄で、コーディネートの目的は、つなぐ、解決することが目的であって、すべての人が安心して暮らせるようにすることは無理な話ではないか。

委員：コーディネートは、相談を受け、適切な紹介をし、アドバイスをすることが目的となるのではないか。

事務局：コーディネートは単につなぐだけではなく、つなげることができなかったことも含めてその課題解決に向けてどうするのかということととらえている。

委員：アドバイスをすることは手段であって、目的ではないのではないか。

委員：「すべての人が安心して暮らせるようにすること」という大きな目的は削除して、もう少し身近なところでの目的とするために、「ボランティア活動や市民活動をしたい人と、ボランティア活動を必要とする人やニーズをもった人をつなぐことにより、地域に存在する課題の解決を目的とする」としてはどうか。

以上の意見が出され、修正を加えたうえで承認された。

(4). 災害専門委員会委員について

事務局より、資料9に基づき、災害時のシステムづくり専門委員会委員の候補者について報告がある。

委員長：災害時におけるボランティア・市民活動センターの役割の検討はどうなっているか。次回以降、検討内容について報告をしてほしい。

事務局：現在は、4月、5月に行われる企画の検討をしており、ボランティア・市民活動センターの役割については、まだ検討していない。

他に意見無く、災害時のシステムづくり専門委員会委員の候補者が確認される。

以上をもって、第12回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。